

若く新しい平飼い養鶏農場が挑む、「人」を活かす DX

株式会社 sueco

インタビューにご協力頂いた方 代表取締役 松本啓 様



佐賀県では、県内企業に対する DX の取り組みの一環として、DX アクセラレータとして伴走することで、経営課題の整理やその解決への取組の企画立案を支援しており、最終的には、企業自らが自走して DX を進めることができるようになることを目指しています。
今回は、株式会社 sueco の取り組みについて、松本様にインタビューしました。

1. DX を進める理由

はじめに、貴社の事業概要を教えてください。



DX アクセラレーター

松本様



sueco は、国産飼料 100% で平飼い養鶏を行う「素エコ農園」を運営しています。2022 年 2 月に創業した、まだ若い会社です。平飼いとは鶏を地面の上で放し飼いする方法で、アニマルウェルフェアの観点でも注目されています。平飼い卵は日本の市場に 5% ほどしか流通していない貴重な卵です。



なぜ、平飼い養鶏の事業を始めたのですか？



私の祖母は伊万里で水菜農家をしていました。そんな祖母と一緒に暮らすために始めたのが、平飼い養鶏事業です。私は学生時代オランダに留学して最先端の農業について学び、農業メディアのライターの仕事をしていたことがあります。ヨーロッパでは循環型農業が盛んです。人々も地球環境のことを考えてオーガニック製品を購入していることに感銘を受け、日本でもそういうことができたらいいなと考えたことが、今につながっています。



今回、DX 伴走支援事業に参加を決めた経緯をお聞かせください。



当社はまだ新しい企業で、メンバーも 20 代ばかりです。これから事業を拡大して人も採用して組織を大きくしていこうと考えるなかで、DX に関心は持っていました。しかし少人数の経営であり、なかなか手を付けられていませんでした。そんな折に、商工会議所で DX 伴走支援事業のことで知り、応募したのです。

これまで社外の専門家の支援を受けたことはありましたか？



何度かありました。私たち自身まだ若い会社ですから、EC 事業に詳しい方と一緒にいていただいたり、財務系に強い方にアドバイスをいただくなど、外部専門家の力をお借りする機会は多いです。そのため、抵抗感はありませんでした。

どのようなところに課題を感じて、DX を推進しようと考えたのでしょうか。



たとえば顧客情報の管理や日々の出荷状況の確認といった業務の効率化、そして鶏の生育状況や生産状況のデータを蓄積・分析したいと考えていました。

2. DX 伴走支援の内容

DX 伴走支援事業では、ビザスクのデータベースから専門家を何名か紹介して 1 人に決めていただきましたが、その理由をお聞かせください。





IT 企業にお勤めで DX の知見があることだけではなく、農業や牧場経営にも精通していらっしゃる事が決め手でした。

DX 伴走支援事業の具体的な内容について教えてください。



社内に散在する情報やナレッジを一元管理するために、Notion を提案いただきました。以前は、社員 6 名がそれぞれの担当業務の情報について、ノートに手書きするなどして管理していたため、どうしても属人化してしまっていたのです。それを数字や写真といったデータを各自が Notion に入力することで可視化でき、コミュニケーションが円滑になりました。



Notion 導入により、社内コミュニケーションがどう変わったのでしょうか。



ファクトベースで話ができるようになりました。たとえば産卵数や産卵状況について、口頭での共有の場合、どうしても担当者の解釈が入り込んでしまいます。しかし、Notion に数字や写真を共有していれば、全員が同じデータを見ながら事実をもとにコミュニケーションを取ることができます。今後の打ち手についても、過去の実績や関連するデータもあわせて考えることができるため、意思決定も迅速に行えるようになりました。





その通りです。これは、専門家の方に頻度高く関わっていただけたからこそだと思います。当社の場合、週1回の定例ミーティングのほか、週3回朝礼に出席いただきました。そこで色々なコミュニケーションを取ることで、少しずつ変わることができたのだと思います。

3. 会社の将来構想

DXを通じて、今後どのような会社にしていきたいですか？



もっと「人」を感じられるような農園や商品に高めていきたいです。そのためにも、バックオフィス業務やデータ管理などは、なるべく人が介在しなくてもいいように、自動化や機械化を引き続き進めていきます。その分、広報や商品づくりといった「人」ならではの個性を出せる場面に、どんどん人の力を活かしていきたいです。その方が会社も成長できるはずですし、何より社員たちが自走でき、楽しく働くことができますよね。



新しい商品の構想など、事業の展望についてもぜひお聞かせください。





商品のラインナップを増やしていきます。今は鶏の炭火焼を開発中です。先日、能登半島地震に被災したお客さまに当社の商品を送ろうとしたのですが、消費期限が短く断念したことがありました。そこで、もっと消費期限が長く常温保存できる商品を開発しようと考えたのです。産卵しなくなった親鶏の身は固いのですが、しっかりと味が出て美味しいので、長期保存できるように活用していきたいと思います。

最後に、DX 伴走支援事業に参加を検討している企業にメッセージをお願いします。



DX とひとくちに言っても、事業や課題は会社それぞれだと思います。この事業では、さまざまな課題に合わせた専門家がいらっしゃるの、自社の課題に合致する方とマッチングができるはず。私たちは伴走支援を受けて本当によかったと思っていますので、少しでも興味があれば、ぜひ応募してみてください！

～支援専門家からのコメント～

「この支援期間中は本当に楽しい時間でした。毎日 sueco（株）の皆さんが、前向きに素直に行動をしていました。その行動が数字に表れ、数字をみんなで共有しさらに上を目指してより良くなっていくという気持ちが常にありましたね。気が付けば私が支援を受けているような感じでした。

トライ&エラーを繰り返しながらも最後までやり抜く力は見事でした！これから次のステージで頑張ってください！今後も楽しみにしています！」

（支援専門家:非開示）

■支援実施企業:株式会社ビザスク

■住所:〒153-0042 東京都目黒区青葉台 4-7-7 住友不動産青葉台ヒルズ 9F

■支援担当者:横山沙織